

島根県済生会江津総合病院 家庭医療後期研修プログラム

【A.プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特徴】

本プログラムにおいては、ケアミックス型の中規模病院である江津総合病院を中心に島根大学医学部附属病院や島根県立中央病院のような大規模病院から近隣開業医まで、また江津総合病院の関連施設である老人保健施設や特別養護老人ホームなどの福祉施設において、急性期医療から慢性期医療、リハビリを経て在宅まで、シームレスな研修が可能となっている研修プログラムである。

【B.プログラムの理念、全体的な研修目標】

高い診断・治療能力を持つ総合診療医・家庭医を養成することを目指します。

地域を支える当院で総合診療を行うとともに、領域別専門医と連携して専門的知識、技術を習得します。

また、当院の関連施設と連携し、退院後の生活管理あるいは日常生活での健康管理を行い、包括ケアを提供します。

【C.各ローテーション先で学べる内容や特色】

ア)外来医療

幅広い症例を経験し、症例カンファレンスを通じた臨床推論や総合診療の専門的アプローチに関する議論などを通じて、更には診療場面をビデオ等で直接観察してフィードバックを提供するビデオレビューを実施し総合診療への理解を深めていきます。

イ)在宅医療

症例カンファレンスを通じて学びを深め、多職種と連携して提供される在宅医療に特徴的な多職種カンファレンスについても積極的に参加し、連携の方法を学びます。

ウ)病棟医療

入院担当患者の症例掲示と教育的フィードバックを受ける回診及び多職種を含む病棟カンファレンスを通じて診断・検査・治療。退院支援・地域連携のプロセスに関する理解を深めます。



【D.指導体制に関する特徴】

1年目の前半6カ月間は江津総合病院において総合診療専門研修Ⅱを、その後近隣の医院・病院で総合診療専門研修Ⅰを6カ月間、地域に密着した施設で医療・介護・福祉・保険予防について学びます。また家庭医療に関する全般的知識、技能を習得します。

2年目の6カ月間は他施設で小児科及び救急科について、後半の6カ月間は江津総合病院で内科について専門研修を行います。

3年目の前半の6カ月は江津総合病院において外科、産婦人科、整形外科から、また関連施設である老人保健施設や特別養護老人ホームから専攻医の希望により選択できます。後半6カ月は江津総合病院で総合診療専門研修Ⅱを行います。

3年間通じて、指導医と一緒に学び成長できる環境を提供します。

【E.医療関係職種、保険・福祉関係職種、地域の住民、 医療機関の利用者などの協力を得る方法】

◎医療関係職種

病院職員と関連施設の医師・看護師他と委員会や研修を通して連携します。

◎保健・福祉関係職種

江津市担当職員と連携連絡会議等により連携します。

◎地域住民

地元青年会議所と連携します（例：病院まつりを共同で開催）

◎医療機関利用者

出前講座（自治会や学校単位）により病院に対しての理解を得ています。

【F.その他】

江津総合病院は関連施設である老人保健施設(160床)と特別養護老人ホーム(特養100床、短期入所20床)を併設しており、地域完結型の医療を実践できる施設群です。医療・介護・福祉の一体研修が可能です。

加藤病院は在宅医療を積極的に行っている施設であり総合診療専門研修Ⅰでは往診・訪問診療を中心に行い、総合診療研修Ⅱでは院内で入院患者を中心に研修を行います。

【G.モデルとなるローテーション例】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	江津総合病院 (総診Ⅱ)						花田医院・船津内科医院・加藤病院 (総診Ⅰ)					
2年目	邑智病院 浜田医療センター 県立中央病院 (小児科)			島大附属病院 県立中央病院 (救急科)			江津総合病院 (内科)					
3年目	江津総合病院 (その他領域(外科・整形外科・産婦人科等))						江津総合病院 (総診Ⅱ)					

【H.プログラムの全体構成(月単位の換算による)】

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (12) カ月	
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

【プログラム責任者】

中澤芳夫（済生会江津総合病院 院長）

【定員】

1年あたり 3名（ × 研修期間年数＝総定員3名 ）